

# U.S. Indicators

## 米国 小売は大幅に上振れ力強さを増した(17年11月小売売上高)

公表日：2017年12月14日(木)

～コア小売の拡大モメンタムが高い伸び～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

### 小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高		耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
		除く車	自動車	家具	家電	衣料品	ガソリン			
16/11	▲0.1	(+3.4)	▲0.0	▲0.2	▲0.3	▲0.5	▲1.4	▲0.2	+0.2	▲0.8
16/12	+1.1	(+4.0)	+0.5	+2.7	+3.6	▲0.7	+0.5	+0.8	▲0.0	+3.9
17/01	+0.5	(+5.6)	+1.1	▲0.6	▲1.6	+1.8	+1.4	+0.9	+0.7	+2.2
17/02	▲0.2	(+4.7)	+0.1	▲0.5	▲1.5	+0.4	▲1.3	▲0.1	▲2.6	▲0.0
17/03	+0.1	(+4.8)	+0.3	▲0.5	▲0.5	+1.7	+2.8	+0.4	+2.0	▲1.0
17/04	+0.3	(+4.5)	+0.3	+0.4	+0.5	▲0.5	+1.8	+0.4	+0.2	▲0.5
17/05	+0.0	(+4.2)	▲0.2	+0.7	+1.1	+1.0	▲1.5	▲0.4	▲0.0	▲3.1
17/06	▲0.1	(+3.0)	▲0.2	+0.4	+0.4	+0.5	▲1.2	▲0.4	+0.7	▲1.4
17/07	+0.5	(+3.7)	+0.5	+0.4	+0.3	▲0.5	▲1.6	+0.6	+0.3	▲0.5
17/08	▲0.1	(+3.5)	+0.5	▲1.2	▲2.0	+0.5	+0.7	+0.5	▲0.4	+3.4
17/09	+2.0	(+5.0)	+1.3	+4.0	+4.8	+0.9	+1.4	+1.4	+0.5	+6.0
17/10	+0.5	(+4.9)	+0.4	+1.0	+1.2	+1.8	+1.2	+0.3	+0.7	+0.3
17/11	+0.8	(+5.8)	+1.0	+0.3	▲0.2	+1.2	+2.1	+1.0	+0.7	+2.8

(注) 数字は季調済前月比。但し、( ) 内は前年同月比 (未季調)。

\*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上合計。

\*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

### 11月の小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.8%に加速

17年11月の小売・飲食サービス売上高(速報値、季節調整値)は、前月比+0.8%(前月同+0.5%)と加速し、市場予想中央値の同+0.3%を上回ったうえ、9、10月合計で0.4%p上方改定されており、市場予想を大幅に上回る強い内容。自動車販売以外の全業態が増加した。減少した自動車販売も9、10月とハリケーン「ハービー」、「イルマ」で被災した自動車の買い替え需要等によって高い伸びとなった後にもかかわらず小幅の減少にとどまっている。雇用・所得環境が良好ななか、資産効果、積極的な値引き等を背景に、小売売上高は高い伸びとなった。

内訳をみると、自動車・同部品が減少に転じたうえ、百貨店など一般小売、食品・飲料、薬局が鈍化した。一方、建設資材、その他小売、年末商戦での需要の強まりを受け通信販売が増加に転じたほか、年末商戦需要で家電、価格上昇でガソリンスタンド、ハリケーンからの復旧や外出の増加によって飲食店が加速した。また、積極的な販促が行われた衣料品は前月と同様に高い伸びとなった。さらに、家具、スポーツ用品・本・趣味用品は鈍化したものの比較的高い伸びを維持した。

### 11月の小売・飲食サービス売上高では、通信販売が最大の押し上げ要因

11月の小売売上高の前月比(+0.79%)の寄与度をみると、マイナス寄与の業態は、自動車・同部品だけ(▲0.04%)。一方、プラス寄与の業態では、通信販売が+0.27%と最大の押し上げ寄与となった。それ以外では、ガソリンスタンドが+0.23%、飲食店が+0.09%、建設資材が+0.08%、家電が+0.04%、衣料品が+0.03%、家具が+0.02%、食品・飲料が+0.02%、薬局が+0.02%、スポーツ用品・本・趣味用品が+0.01%と続いた。その他小売り、百貨店を含む一般小売は0.00%。

**11月の自動車を除く小売売上高は前月比+1.0%と加速**

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+1.0%（前月同0.4%）と加速し、市場予想中央値の同+0.2%を上回ったうえ、9、10月合計で0.4%p上方改定されており、市場予想を大幅に上回る強い内容となった。建設資材、その他小売、通信販売が増加に転じたほか、家電、ガソリンスタンド、飲食店が加速した。また、衣料品は前月と同様の伸び率となった。さらに、家具、スポーツ用品・本・趣味用品は鈍化したものの比較的高い伸びを維持した。

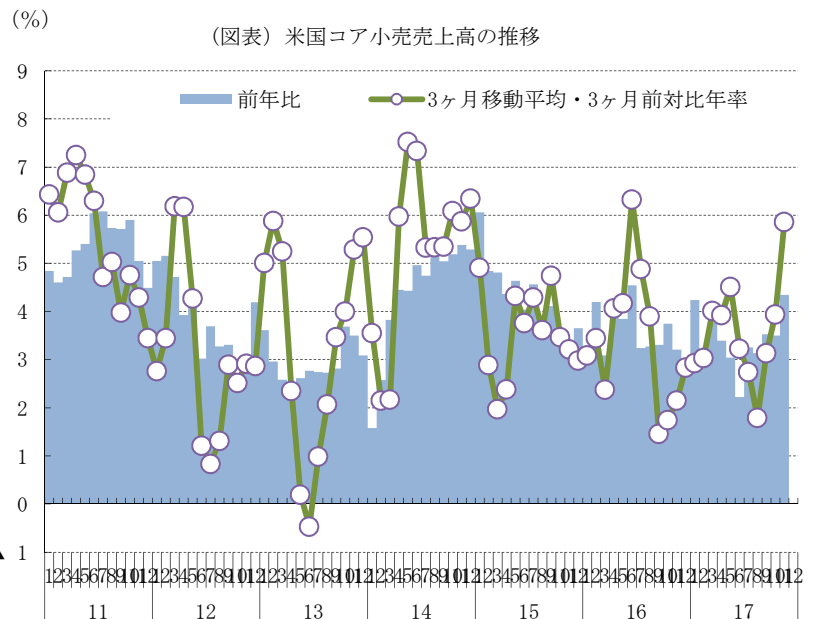
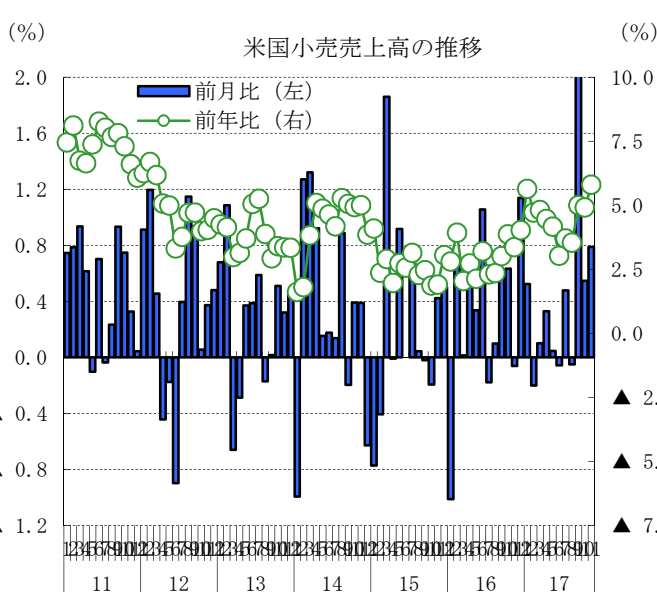
**11月のコア小売売上高は前月比で+0.8%と加速し、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+5.9%に強まった**

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は、前月比+0.8%（前月同+0.4%）と加速し高い伸びとなったうえ、9月合計で0.3%p上方改定された。その他小売、通信販売が増加に転じたほか、家電、飲食店が加速した。また、衣料品は前月と同様伸び率となった。

3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+5.9%（前月+3.9%）と加速しており、コア小売売上高の拡大モメンタムは強まっている。全米での雇用・所得の増加傾向、株等の資産価格の上昇、消費者マインドの安定など、消費を取り巻く環境は良好な状態を続けている。このような中、復旧・復興需要などもあり、小売の基調を示すコア小売売上高のモメンタムは、一段と強まった。

**10-12月期の実質個人消費は前期比年率+3%程度に加速する見込み**

四半期でみると、10、11月のコア小売売上高は7-9月期比年率+5.1%と7-9月期の前期比年率+3.1%から加速した。また、12月のコア小売も良好な雇用・所得環境を背景に拡大を続けると予想されることから、10-12月期の実質個人消費は同+3%強（7-9月期同+2.3%）に加速すると予想される。



(出所) 米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。